

秘

情報委員會九・二 情報第一號

一南京支那語放送 (十日)

一上海十日電

(イ)九日夜九時四十五分及十時二十分、我空軍ハ兩度敵軍楊樹浦一帶ノ陣地ヲ爆撃シ日本郵船會社碼頭ノ根據地ニ投彈シ敵ノ損失ハ多大デアツタ、南京指揮官ノ報告ニ依レバ敵ノ運輸船一隻アリ激戰ノ際爆彈ガ船ノ附近ニ落下振動シ敵軍ハ異常ニ恐慌シタト

(ロ)吳淞方面ノ敵軍ハ九日午後戰車ト共ニ我ガ陣地ニ向ケ進行シ我軍奮勇邀撃シ機關銃ヲ以テ交戰シ敵ハ前進スルニ途ナク久シク對峙シタ後敵ハ戰車二輛ヲ放棄淞城東北一帶ハ切斷サレタ當夜我ガ後方ノ歩兵部隊到着反抗シ敵ハ甚大ナル死傷者ヲ出シ支ヘ得ズシテ退ゾキ我軍ハ十日朝迄依然現有陣地線ヲ守ツテ居ル

(ハ)十日午前十一時三十分浦東ニ碇泊スル敵艦ハ突然我ニ向ケ密集襲撃シ我浦東方面ノ砲兵陣地ハ直チニ反撃シタ十一時四十分我軍ハ郵船會社碼頭ヲ襲撃シ敵機二臺ハ浦東ヲ飛翔シ吳淞ノ敵艦ハ引續キ我ニ向ツテ發砲シ敵ノ三〇號砲艦發砲最モ多ク午后一時二十分ニ至リ砲聲ハ暫ラク熄ンダ

(ニ)敵ハ連日大ナル損害ヲ受ケ十日運輸船二隻ヲ碇泊セシメ盛ンニ負傷兵ヲ收容シテ居ル
(ホ)羅店方面ノ敵ハ九日夜數度我ニ向ツテ猛攻シ我軍應戰シテ敵軍ニ機關銃ヲ密集シ敵ハ多

數ノ死傷者ヲ出シタ。

(ノ)午後一時二十五分虬江碼頭附近ノ我軍歩兵二聯ハ九日夜五家宅爲嚮導トシテ、陣地カラ敵軍ノ側面ヲ攻撃シ敵軍ノ戰線大イニ亂レ港邊ニ退却シ十日朝迄軍工路以西五權路一帯ハ切斷セラレタ

(ト)寶山方面ニ於テハ十日朝我レハ陣地ヲ嚴守シ一面六軍ヲ派シ嚴重包圍シテ居ル

(チ)十日ルーター電

八日上海ニ於テ觀察者ハ左ノ如ク語ツタ

日本陸海軍ノ作戰ハ壯烈デアルガ支那軍ノ作戰ハ巧妙ニ連絡シ日本軍ハ各軍隊強攻ニ多數ノ死傷ヲ出シタト尙觀察者ハ日本ノ上海ニ於ケル作戰ニ五萬數千ヲ有シテ居ル又支那人民ノ團結ハ從來會テ無イ所デアルト語ツタ

三、南 京

(イ)抗日戰發生以來全國人士ノ緊張振リハ全ク空前未ダ有テ海外在留同胞ガ遠クヨリ國內ニ宛テ送金セルモノ既ニ二千三百萬元ニ達シ舉國其ノ熱誠ニ感ジテイル、

(ロ)經濟委員會ガ七月二十六日カシ八月三十一日迄各地カラ受取ツタ義捐勞金ハ二萬一千三百六元デアル

(ハ)數日來平綏線ノ戰事ハ緊張ヲ見テ居ルガ當地ニ得タル消息ニ依レバ次ノ如クデアル

敵ノ偽軍警五千餘名別ニ騎兵四、五百名ハ八日南口家宅ヲ進攻シ日本人田中リシユシ

ンガ總副司令デアツタ、

敵日本軍ハ二旅團ニ偽軍約二萬餘外ニ尙砲兵ヲ有シテ居ル

(ニ)獨露兩國間ニハ一九三三年以來獨逸、露西亞ノ友好條約成立シ居リ日本ハ之ヲ忘レテ居ルモノト見ユル

(ホ)本日南京中央放送局受付ノ愛國錢合計二一五四元一〇錢午後八時十分ヨリ同五十五分迄ノ放送休ム

(ニ)講演、「抗戰中ノ生産建設」

世界大戰ノ際獨逸ガ失敗シタ原因ハ經濟力ヲ支持シ能ハナカツタ爲デアル、經濟力コソ戰鬪力デアリ經濟力無クレバ戰鬪力ガナシ以テ經濟力ヲ培養シ行政ヲ整理シ抗戰時ノ愛國錢、救國公債ヲ旺ントスルニ生産建設ニ倍加ノ努力ヲ希望スル

三、綏遠十日電

(イ)平綏線ノ我軍ハ九日確カニ柴溝堡ノ陣地ヲ回復シ敵ノ殘部ハ大損失ヲ受ケ大部ハ南縣ニ撤退シ我軍追撃シテ日偽ヲ防イダ華北偽軍ノ一部ハ七日カラ南口縣ヲ進攻我ガ軍ハ奮勇之レヲ防イダ

四、倫敦九日電

(イ)香港カラ得タ消息ニ依レバ汕頭ツウコウ號及アンガ號ハ香港カラ杭州ニ赴キタル際日本ノ驅逐艦來リ臨檢搜索シタ、コノ事件ハ東亞領海附近テ發生セルモノニテソノ後英艦二隻ハ

引續キ難航シタ。

(ロ)十日ロイテル電、支那政府ノ、委員會ハ英國カラ八十萬磅ノ借款ヲ購入シタ之レガ大部分ハ平漢線ノ鐵橋、橋梁ヲ建設スルモノデ上海戰開始前注文ヲ購入シタモノデ一半ハ既に發送シ一半ハ當方運轉困難デアルガ依然引續キ實行中デアル

五華盛頓九日ロイテル電

ハル國務長官ハ九日記者ニ向ヒ左ノ如ク語ツタ「支日戰爭ハ引續キ進行中デアルガ米國ハ駐支軍隊ヤ軍艦ノ撤退ヲ企圖スルモノデハ無イ」ト更ニ我政府ハ在留同胞ヲ保護スルノ責任ヲ有シテオリ危險充分ニアルト

六、巴里九日電

英外相イーデンハ九日正午當地ニ到着シ外交部ハ宴ヲ設ケテ歡待シタ同夜十時二十分イーデン並ニ佛外相ハ同車シテセネバニ向ツタ

極秘

情報委員會九・一一

情報第二號

我對英回答と米國新聞評

—同盟特情—不發表

ニユーヨーク十日發

ポストン・クリスチャン・サイエンス・モニター紙(九日)「日本の責任」

「英國駐支大使ヒューゲツセン氏負傷事件に關する英國の抗議に對する日本の回答は不満足だ、吾人は英國政府の見解を陳べる譯ではなく、人間として非戦闘員に加へられた野蠻な攻撃を道義的に非難してゐるのだ、即ち數年に亘り支那を虐待し、滿洲を侵略し、九ヶ國條約に違反し、北支に於ける軍事的侵略と商業的暴虐等結果に於て支那を統一に馳り立てたる屢次の侮辱と侵害、上海に於ける中立國人の權利の侵害、宣戰せざる封鎖宣言等の害惡に對し國際法とフェア。プレーの精神の前に日本は回答する義務がある、國際法違反に對しては辯護の方法もあらうが非戦闘員に對する暴虐に就いては一言もなからう、何も日本の國民に對し憎惡を感じ度くはないがその軍部のやる事は國民の責任だ、無辜の民に對する攻撃は人道に許すべからざるものである、此の理由に基き全世界は此の攻撃に關しては英國に加擔し、日本の回答を不充分と認めるものだ」